

1. 普通鋼鋼材の在庫状況見通し（全国市中数量調査の自社所有分による）

*上段は前期比在庫増減、中段〔 〕は在庫水準、下段（ ）は在庫水準前期比（%）（自社所有分に限る）
点線内は全鉄連による予想数字（ ）内は誤差率=予想値÷実績

令和2年11月末	令和3年2月末	令和3年5月見通し	令和3年8月見通し
-85千トン 〔 2055千トン〕 (96.0%)	-149千トン 〔 1906千トン〕 (92.7%)	+40千トン 〔 1946千トン〕 (102.1%)	+10千トン 〔 1956千トン 〕 (100.5%)
2060千トン(100.2)	2090千トン(109.7)	*	*

2. 前述の在庫増減がそれぞれ市況に及ぼした影響

令和2年12月末	令和3年3月末	令和3年6月見通し	令和3年9月見通し
鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は85,000円。前期比+2,600円。土木関連は、堅調に推移しているものの建築関連では中小物件が少なく、低調な荷動きが続いた。スクラップ価格の急激な上昇に伴い、メーカーの売腰が強くなった。在庫は低い水準だが、先が見えない状況下、各社仕入を抑えて調整。	鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は92,300円。前期比+7,300円。年明けから中小建築物件の需要低迷が続いた。そのため、メーカー値上げの価格転嫁は道半ばで、難しい局面が続いた。流通は販売依然需要の盛り上がり欠ける中、価格転嫁の難しい局面が続いていた。	荷動き好転の兆しもなく、出庫低迷で在庫増も懸念される。需要が少ない中、スクラップ価格が高位で推移しており、メーカーは更なる値上げの雰囲気である。流通は慎重な仕入れ姿勢を続け価格転嫁に尽力することになる。メーカー値上げに追い付いていけない足踏み状態が続くと、流通は厳しい状況に立たされることになるだろう。	土木関連は一部止まっている物件も見受けられるが需要は安定している。建築関連について物流倉庫、仮設住宅などは堅調に推移すると思われるが、中小建築案件が出てくるのは秋以降。見積りも若干だが徐々に増えてくるだろう。今後、更なるメーカー値上げも予想され、メーカーの強気姿勢は継続される。流通はユーザーの抵抗を受けながら量よりも価格優先の商売を強いられるだろう。

3. 在庫積み増し、あるいは削減の意欲または方針

4月の仕入量は152,977トン前月比-6.9%、前年同月比-1.1%、販売量は158,662トン前月比+2.0%、前年同月比-4.6%。仕入量は前月比、前年同月比ともに減少、販売量は前月比増加、前年同月比減少しました。在庫量は234,170トン前月比-2.4%、前年同月比+8.9%、在庫量は前月比減少、前年同月比増加しました。在庫率は147.6ポイントと下降しました。

現在、建築需要は相変わらず低調の状態が続いており、市況だけはメーカーの大幅値上げの影響で上昇傾向です。流通在庫は高値玉に入れ替わってきており、価格転嫁を急いで進めていますが、緩やかな状況です。

4. 大阪の動向

（大阪）4月、5月の荷動きは低位横這い、5月後半にメーカーの大幅値上げを受けて仮需が発生した。6月も大きくは変わらないが、稼働日数の増加と仮需のデリバリーで一般形鋼中心に増えると思われる。来期の見通しは、建築需要で大型案件は予定通り進んでいるが、中小案件・企業の設備投資などは秋以降になるとと思われる。鋼材全般が高値で推移しており、流通も多くは買いにくい状況。当面、出荷見合いの購入が続く、夏季に定修を予定しているメーカーも多く生産量は増えない見込み。在庫は横這いで推移すると思われれます。